

第 59 回 社会貢献者の記録



第 59 回

社会貢献者の記録

目次

| | |
|--------------|-----|
| 社会貢献者表彰とは | 004 |
| 表彰選考委員プロフィール | 006 |
| 式次第 | 007 |
| 会長挨拶 | 008 |
| 来賓祝辞 | 010 |
| 記念写真 | 012 |
| 表彰式スナップ写真 | 013 |
| 受賞者代表挨拶 | 020 |
| 乾杯のご発声 | 022 |
| 祝賀会スナップ写真 | 023 |
| 受賞者手記 目次 | 027 |
| 資料編 | 090 |

社会貢献者表彰とは

国の内外を問わず、社会と人間の安寧と幸福のために貢献し、顕著な功績を挙げられながら、社会的に報われることの少なかった方々を表彰し、そのご功績に報い感謝することを通じてよりよい社会づくりに資することを目的とする。

第59回社会貢献者表彰の概要

【募集告知】

2022年8月より、ダイレクトメール発送、海外フリーペーパー等への告知広告、当財団ウェブサイト等にて

【対象となる功績】

- 社会貢献の功績

【候補者について】

- 候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍等の制限はない
- 日本で活動する方、もしくは海外で活動する日本人を対象とする
- 候補者は、同種の功績により当財団の「社会貢献者表彰」を受賞されていない方とする
- 候補となった功績と同一または同種の功績により、既に国の栄典（叙勲、褒賞）または大臣表彰等を受賞されている方は、選考の際、後順位とされる

【選考について】

選考委員会開催日：2023年1月27日

【受賞者】

受賞者：30組

【表彰式】

開催日：2023年7月31日 帝国ホテル東京

受賞者には表彰状、副賞として日本財団賞（賞金100万円）を贈呈する

奨励賞

過去に社会貢献者表彰を受賞され、顕著な活動を継続されている方々の中から、用途が明確な事業等に対し、当財団の運用益から賞金300万円を贈呈している。

【受賞者】 2組

NPO 法人 西成チャイルド・ケア・センター（第54回受賞者 大阪府）

「つながりの家」の設立費用の一部

認定 NPO 法人 ひこばえ（第54回受賞者 群馬県）

拠点事務所の内装、水回り等の改修工事費用

日本財団特別賞

過去に社会貢献者表彰を受賞された団体や個人に行ったアンケートの回答を元に、要望のあった物品購入などに対し、支援を行うもの。

【受賞者】 4組

札幌遠友塾 自主夜間中学（平成25年度受賞者／北海道）

夜間中学の教室会場費用一年分

認定 NPO 法人 10代・20代の妊娠 SOS 新宿 - キッズ&ファミリー（第55回受賞者／東京都）

活動ニュースを印刷用に高速印刷ができるレーザープリンター購入

NPO 法人 ダルク女性ハウス（第57回受賞者／東京都）

母子支援施設（シェルター）に網戸と換気扇費用と防災用品購入費用等の購入

われら海岸探偵団（第57回受賞者／福岡県）

海岸の砂に埋まった漁具などの大型ゴミを回収するための重機や搬送用運搬機購入

表彰選考委員プロフィール (敬称略・五十音順)

委員長



脚本家 東北大学相撲部 総監督

内館 牧子

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでえッ!」「私の青空」「毛利元就」「エイハラメント」ほか多数

著書：「終わった人」「今度生まれたら」ほか多数

委員



元国税庁長官

大武 健一郎

認定 NPO 法人ベトナム簿記普及推進協議会 名誉会長

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道―国のかたちをみすえて」ほか多数

委員



産経新聞 東京本社 編集局 編集委員

小川 記代子

委員



iU 情報経営イノベーション専門職大学 教授

久米 信行

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT 出版)「NPO のための IT 活動講座 効果が上がる情報発信術」「すぐやる人だけがチャンスを手に入れる」ほか多数

委員



ノンフィクション作家 公益財団法人民間放送教育協会 会長

吉永 みち子

「ワイド!スクランブル」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」「老いの世も目線を変えれば面白い」「試練は女のダイヤモンド」ほか多数

第59回社会貢献者表彰 式次第

第一部 表彰式

10：30…開式

- ・ 会長挨拶
- ・ 選考委員紹介
- ・ 表彰状の贈呈
- ・ 受賞者代表挨拶
- ・ 日本財団特別賞の発表
- ・ 来賓祝辞

12：20…閉式

第二部 祝賀会

12：30…開宴

- ・ 乾杯のご発声
- ・ 奨励賞の贈呈

13：30…閉会

(2023年7月31日 於帝国ホテル東京 本館3階 富士の間)

会長挨拶

社会貢献支援財団の会長を務めております安倍昭恵でございます。

第59回社会貢献者表彰式典を開催するにあたり、受賞者を推薦くださいました皆様、また日本財団はじめご協力をいただいております関係各位に厚くお礼を申し上げます。



本日は30組の表彰をいたしますが、受賞者の皆様、そしてその活動を支えていらっしゃるご家族はじめ関係者の皆様、またこの度は現役のボートレーサーの方々にもお越しいただきましたことに、心より敬意を表しますと共にお祝いを申し上げます。

私は、この財団の会長に就任以来、皆様の素晴らしい活動を拝見して参りました。実際にご活動の現場をお訪ねし、見聞きすることで目下の社会問題の数々を知り理解していくなかで、私に出来ることは何か、と考える機会をいただいています。

都内新宿区の歌舞伎町付近で「認定 NPO 法人10代・20代の妊娠 SOS 新宿 - キッズ & ファミリー」などが行う夜間パトロールに参加し、行くあてがなく危険を伴う夜の街で過ごさざるを得ない若い女性たちの実情を知りました。6月の初めには、「NPO 法人グラウンドワーク三島」を訪問し、英国発祥のクラウンドワークという手法を取り入れて、三島市内を流れる源兵衛川が清らかな水辺の環境を取り戻すまでの道のりを伺いながら、ホタルが舞う様子を鑑賞することもできました。

先日は長年里親を続けられている坂本洋子さんが、里親たちが支え合う場所として行ってきたサロン活動「里親ひろば ほいっぷ」の20周年と NPO 法人化をお祝いするパーティに出席させていただくことができました。

皆様のいずれもが、苦勞を重ねながらの活動を、更に改善し発展させようと頑張っている姿に頭の下がる思いがいたしました。

本日お集まりいただきました受賞者の皆様もそういった方々です。社会課題の解決を行政だけに頼るのは難しい現状に、見て見ぬふりの出来ない皆様が行動を起こしてくださっています。今後とも少しでも明るく住みよい社会になりますよう引き続きお力をお貸してください。

受賞者の皆様の活動に日々、私も力をいただいております。今後も当財団の会長として精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願ひ申し上げます。

最後に受賞者の皆様の活動の一層の拡大と発展とともに本日ご出席いただきました皆様のご健勝をお祈りし、挨拶といたします。

公益財団法人 社会貢献支援財団
会 長 安 倍 昭 恵

来賓祝辞

ご紹介賜りました日本財団会長の笹川です。毎回この祝賀会に参加させていただいており、その度毎に如何に広く日本中で心ある方々が日頃汗をかいて、困っている方々のために活動をなさっているかということをお勉強させていただいています。また同時に、日本が抱える様々な社会課題がありますが、そうしたことに對して皆さまが気づき、その問題を解決しようとお働き頂いている内容をこの場で私自身も勉強させていただき、それをどのように、日本はもとより世界に広げていくかというのが私に与えられた仕事であると考えています。



多様な社会の中で、日本社会の中でも格差が広がり、困難な生活をなさっている方がいかに多いかということは、この場に来てみないと分からない深刻な問題です。

日本にはもともと助け合いの精神が存在していました。しかし社会の近代化のなかで、助け合いをするコミュニティそのものが崩壊し、家族の中でも孤立化が進んでしまいました。スマホは優れたツールの一つかもしれませんが、家庭内での孤立化をすすめています。例えば極端な話、家の中でも奥さんと夫がスマホで話をするのも珍しくなく、また若者がレストランで食事していても、お互い下を向いてスマホをいじっている姿を見ると、子どものみならず日本人の多くが孤立していると感じます。

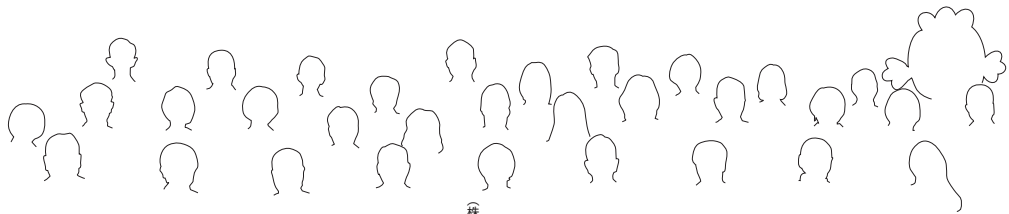
スマホの影響で人と会話を十分にできない子どもたちが出てきている中で、皆さんの活動は、まさに人間的なコミュニケーションの重要性を認識し、困っている人が孤立化しないようにするにはどうすればよいかということに気づき、挑戦されています。そうした意味で、私はまだまだ日本は捨てたものではないと感じています。皆さんの活動は大変ユニークで、今日表彰された方々は社会の中でなくてはならない活動をお

やりになっています。こうしたユニークな取り組みをどのようにして日本の社会全般に、或いは世界に広げていくかというのが大変大きな課題であり、私自身もまだまだ働かなければならないと実感しています。社会課題は何かを苦悩しながら考えて活動しているつもりではありますが、今日の表彰者の皆さんの活動を拝見し、まだまだ勉強が足りないと感じています。

社会貢献支援財団は、安倍会長自らが、時にはアジア諸国まで足を延ばされて活動をご覧になっています。先般も、再犯防止に向けて刑務所や少年院の出所者が定職につけるよう、中小企業の社長さんが親代わりになって支援されている日本財団の職親プロジェクトを応援するため、わざわざ大阪までおいでになり激励のお話をして下さいました。そして多くの候補者の中から、内館牧子選考委員長を中心に、常に公正そして冷静に判断され、本当に日本社会の中で必要であり、未来志向で我々に「こうしたやり方もあるんだ」と示唆してくれる活動を選んでいただいていることに御礼申し上げます。

公益財団法人 日本財団
会長 笹川陽平

記念写真

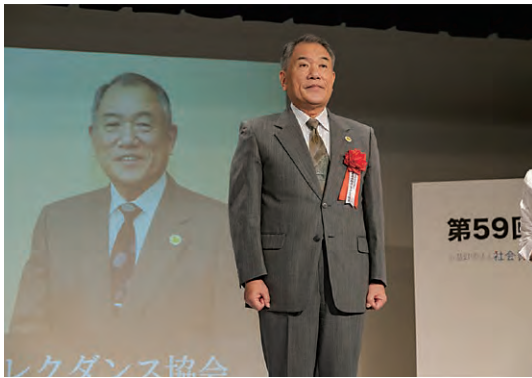


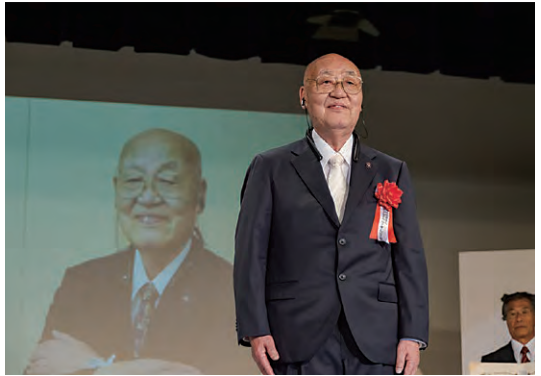
- 長谷川母子集協団
- 川口 淳二
- フグ田サザエ
- フリースペース ためりぼ
- 鈴木 晶子
- 松永 佳子 熊本どんぐり
- ALDの未来を考える会
- 本間 りえ
- 皆川 充 コンバスタービ
- 中島 かおり ヒッコリーレ
- 吉野 朝 (株)サポートジャングルクラブ
- 小嶋 洋子 女性サポートセンター Indiah あんだんて
- 大沼 陽子 アジアの子どもたちの就学を支援する会
- 杉江 健二 青少年養育支援センター 開業会
- 浜松ねこシエーター
- 服部 優二
- 若狭シスターサポート協会
- 小杉 沙織
- 若狭シスターサポート協会
- 副島 勲 ヒーロマンハーバー そんなと塾
- 青木 和男 のびのびスポーツクラブ
- 阿部 眞次 北海道サテライト・ネパール教育基金
- 安倍 昭恵 会長
- 黒木 実馬 日本車椅子レクダンス協会
- 竹内 俊一 岡山未成年後援センターえがわ
- 河井 耕治 犯罪被害者支援「ひだまりの会」 Okinawa
- 嘉納 英明 名護市学童支援教室 ぴゅあ
- 樋川 好美 ベトナム子ども基金
- 箕井 健 北原株式会社
- 林 恵子 ブリッジ・オースマール
- 堀 芳美 Japan Network Japan Network
- 小林 良子 Japan Network
- 岡田 妙子 パライチム
- 鎌田 弘美 さもの笑箱
- 山本 康世 オリーブの家
- 馬場加奈子 (株)サクラッド
- 永杉 豊 ホールディングス株式会社 MJ
- 齋藤麻紀子 Umiiのいえ

表彰式















受賞者代表挨拶

私は認定 NPO 法人プラス・エデュケート理事長の森顕子と申します。外国ルーツの子どもたちへの日本語・教科学習支援と教材研究・作成、子どもの日本語教師育成などの活動を行っております。

外国ルーツの子どもには、多様な背景があります。外国で生まれ育ち、親に連れてこられた子はもちろんのこと、親は外国人だけど日本で生まれ育っている子、父親は日本人だけど母親は外国ルーツの人で、国籍は日本などです。我が国では、在留外国人は約300万人となっており、今や外国人なくして、経済はなりたちません。私たちが活動拠点とする愛知県は自動車関連の製造業を中心として、サービス、物流、介護、農業などあらゆる分野で外国人がたくさん働いており、それに伴い外国ルーツの子どもの数もとても多いところです。

文科省の調査によりますと、日本語指導が必要な子どもの数は全国に約6万人といわれ、そのほとんどが、十分な日本語指導を受けられているとはいえません。中でも愛知県は1万2千人もの子どもが指導を必要としており、他県に比べ、群をぬいて多くなっています。そして、学校に通っていない、いわゆる不就学の状態の子どもも全国に約1万人いることも忘れてはなりません。

私たちは活動当初から、6歳から18歳くらいまでの子どもを対象に支援してきました。大人は来日目的があり、必要であれば様々な方法で日本語を学ぶことができますが、子どもは、そうではありません。それなのに、学校では日本語が話せなければ友達ができず、孤立してしまいがちです。また、彼らは学校では日本語、家ではポルトガル語というような環境で暮らす上に、「読み書き」ができる日本語力を持っている親は少ないため、家庭で学習サポートを得ることは難しいです。さらに滞在年数が長くなると、日本での進学や就職を考えなくてはなりません。

そのため、毎日学習できる体制づくりが必要だと考え、行政主導で学校との連携がとれるよう、数年をかけて粘り強く交渉した結果、今では3つの自治体から委託をうけ、指導を必要とする子どものほとんどが、日本語教育を受けられるようになりました。

と同時に、教育内容の充実にも取り組みました。学習を始めてから、できるだけ早くにその効果を感じられなければ、子どもたちのやる気は維持できません。市販の教材



では満足できず、自分たちで試行錯誤を重ねて、4冊のテキストを完成させ、『3か月で話せるようになる指導法』を確立しました。そして、私がもう一つ情熱を傾けてきたことが「教師の育成」です。

子どもは1人1人素晴らしい能力を秘めており、それぞれの人生の主演です。しかし、多くの子どもはそのことに気付いていません。教師は、彼らに今より少し負荷をかけてやり、がんばらせ、認めて、ほめてあげる。その中で、子どもに自分はやればできるんだと信じさせることが、教師には必要です。いいかえれば、「主演」はあくまでも子ども自身であり、教材や指導法は「脚本や設定」にすぎず、教師は「演出家」でなければならないということです。外国ルーツの子どもにとって、日本語教師は初めて深く接する日本人となります。その出会いが、日本で生活していく自信となり、素晴らしい未来につながるのであれば、これほどうれしいことはありません。今後も広く子どもの日本語教師を育成することで、どこに住んでいても質の高い教育が受けられるような社会が実現できるよう努力を重ねていきたいと考えております。

最後になりますが、この度は、大変名誉な賞を賜りましたことに加え、素晴らしい活動をされ、表彰を受けられたすべてのみなさまを代表してこの場に立たせていただいたことに、心より感謝申し上げます。これからも、皆様とともにこの賞に恥じぬよう精進してまいります。まことにありがとうございました。

認定 NPO 法人プラス・エデュケート
理事長 森 顕子